

「内視鏡所見のよみ方と鑑別診断 上部消化管」

芳野 純治
浜田 勉 編集
川口 実

福岡大学筑紫病院消化器科教授

八 尾 恒 良

生物学は Biology，形態学は Morphology，病理学は Pathology，放射線学は Radiology である。“-ology”を「Webster's International Dictionary」で見ると“a branch of knowledge: SCIENCE”とある。

しかし，内視鏡は Endoscopy で -scopy は scrutiny, observation とある。

内視鏡の基本は“精細に見る”ことのように，内視鏡検査を始める人には挿入法もだが，兎に角，見落としがないようしっかり見ると教え込む。しっかり見ても視覚と大脳皮質をつなぐ神経が断線して，病変を見ても見えない人もいるが，通常は色調の変化から病変らしいと感じて何でもかんでも生検する人もある。そして，生検した部位は問題ではなく，Group 1 または 2 という病理医の返事がもらえれば安心する人も多い。

言うまでもないが，診断には“見た”所見と病理所見が一致しなければ疑問を感じる事が正しい内視鏡診断医の基本と思う。

内視鏡診断医が個人で経験する症

例はたかが知れているので“見た”所見で診断するには“見た”人によって多数の病変の所見が整理され系統化されることが必要である。

本書は多数の症例を経験し，今も現役で多数の症例の診断にあたっている超ベテランの内視鏡診断医が集まって，内視鏡所見を整理し系統化し，内視鏡医の実戦に資することを意図して作られた本である。

上部消化管病変が，部位別，所見別に整理されているので，検査医が“見た”所見に応じてその頁をめくれば，鑑別すべき疾患の写真と解説が簡単に見られる仕組みになっている。また，見開きの右の頁を隠して左の頁の内視鏡写真を見たあとで右頁を見れば，その正解と解説が記述されているので，自分の診断力や疾病に関する知識を試すのにも役立つ。

もちろん，内視鏡医に必要な基本的事項も簡潔に記載されている。

Webster の“Science”には something that may be studied or learned like systematized knowledge と

も記載されている。本書は -scopy, scrutiny と -ology, knowledge とを止揚した書とも解釈される。

内視鏡診断学の究極の目的は病変の局所局所の所見がどのような病理学的所見から成立しているのか，そしてその所見が内視鏡でどこまで診断できるのかを極めることにあると思う。そのためには，その目的できちんと調べられた病理学的所見と内視鏡所見とをきっちり対比できる多数の症例が必要である。そして，その多数例を整理し，系統化してはじめて science の域に達するとも思われる。

本書に精通され，カンファレンスの症例をその目で眺め，内視鏡学会誌や「胃と腸」をその意図で読まれれば内視鏡診断の実力が倍加されるものと信じている。

● B5 頁 336 図 376 写真 129
カラー写真 949 色図 43 表 80
2001 定価 (本体 12,000 円 + 税)
送料実費

医学書院 刊 (☎ 03-3817-5657)